

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和2年6月19日	部 名	衛生化学部
調査研究課題		本県に流通する水産食品のアニサキスによる汚染状況調査		
調査 研究 体制	主任研究者	高山清子		研究区分 (小分類)
	その他の研究者	木下和昭、恒益知宏、松川浩子 黒木俊幸		
	調査研究期間	令和3年度 ~ 令和5年度 (3カ年間)		
	調査研究費	予算項目	令和3年度	令和4年度
	国 県 そ の 他	千円 300千円 千円	千円 200千円 千円	千円 200千円 千円
	合 計	300千円	200千円	200千円
調査研究の目的		<p>令和元年の国内のアニサキスによる食中毒事件数<sup>1)</sup>は全体の31%を占め、近年増加傾向にある。アニサキスがヒトの体内に侵入して生じる「アニサキス症」以外に、抗原としてアレルギー反応の原因になることも知られており、実際にアナフィラキシー発生事例が報告されている。そのため、水産食品中のアニサキスによる汚染状況を把握することは食品衛生の観点から重要であると考えられるが、報告が少ないのが現状である。</p> <p>そこで、本研究では、リアルタイムPCRを用いて水産食品中のアニサキス遺伝子検出法を検討し、本県に流通する水産食品のアニサキスによる汚染状況を明らかにする。さらには、LC/MS/MSを用いたアニサキス抗原検出法を開発し、アニサキスアレルギーのリスクを調査する。</p>		
調査 研究 内容	研究の実施計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 水産食品中のアニサキス遺伝子検出法の検討</li> <li>2. LC/MS/MSを用いたアニサキス抗原検出法の開発</li> <li>3. 水産食品中のアニサキス遺伝子の検出及びアニサキス抗原の定性、定量</li> </ol>		
	技術手法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象：県内に流通するサバ、カツオ等の水産食品</li> <li>2. アニサキス遺伝子の検出：リアルタイムPCR法</li> <li>3. アニサキス抗原の定性、定量：LC/MS/MS法</li> </ol>		
	年次計画	<p>【令和3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アニサキスDNAと既報のプライマーを用いてリアルタイムPCRを行い、アニサキス遺伝子の検出方法を検討する。</li> <li>・アニサキス抗原タンパク質の情報を基に、分析に適したペプチドを選択しLC/MS/MSの分析条件を検討する。</li> </ul> <p>【令和4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LC/MS/MSによるアニサキス抗原検出法の確認を行う。</li> <li>・本県に流通する水産食品を入手し、アニサキス遺伝子の検出及びアニサキス抗原の定性、定量を行う。</li> </ul> <p>【令和5年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追加試験及び研究結果のまとめ</li> </ul>		
調査研究の効果等 (行政効果・県民ニーズへの波及効果等)		<p>本県に流通する水産食品のアニサキスによる汚染状況を明確にし、アニサキス抗原の測定系を構築することにより、アニサキスアレルギーの予防、アレルギー疑い発生時の対応が可能になる。また、LC/MS/MSを用いたアニサキス抗原検出法の開発は、報告例がなく新規性がある。</p>		
備 考		1)厚生労働省：食中毒統計資料 令和元年食中毒発生状況		